



# ことしば



1月号

【学校教育目標】 「挑戦し、未来を拓く『琴芝っ子』の育成」



## 新年あけましておめでとうございます



皆様お健やかに新年をお迎えのことと存じます。旧年中は、本校教育活動にひとかたならぬご理解とご支援を賜り心よりお礼申し上げます。

新しい年、令和2年（2020年）は、スポーツと平和の祭典『東京オリンピック・パラリンピック』が開催されます。また、小学校では新しい学習指導要領に基づいた教育活動が本格的に実施されます。近年、社会の変化が加速度的に進展し、私たちの予測を大きく超えています。学校は、子ども達が予測困難な新しい時代を生きるために必要な力を、地域社会と連携・協働しながら、身に付けさせなければなりません。新たな年の始まりであり、学年のまとめでもある3学期を迎え、教職員一同『ワンチーム』となって、「挑戦し、未来を拓く『琴芝っ子』の育成」に努めてまいります。保護者、地域の皆様方におかれましては、今年一年が素晴らしい年になりますようお願いいたしますとともに、本校教育活動に対し、昨年同様ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。



### 『庚子』（かのえ・ね） ～ 今年はどんな年に ～



今年の干支は『庚子』（かのえ・ね）です。子は、十二支の中で最初の年で「種子の中に新しい生命がざし始める状態」、庚は「植物の生長が止まって、新たな形に変化しようとする状態」だといわれています。つまり、庚子は、全く新しいことにチャレンジするのに適した年だそうです。前述の通り、教育も新たな年を迎えます。新しいことを始めるときには、『これまで通り』のものを続けるよりかなりエネルギーが必要です。昨年のノーベル賞受賞者、吉野彰先生は、大学の講義で「失敗しないと絶対に成功はない」と学生達に話されています。『挑戦（失敗）なくして成長（成功）なし』です。『出来るか出来ないか』より『やるかやらないか』です。一人ひとりが夢や目標をもち、それに向かって何度でもチャレンジする、そんな年にしたいものです。



### 校長のつぶやき

### 箱根駅伝に学ぶ ～ 目標の見える化 ～

今やお正月の風物詩となった箱根駅伝。特に今年は、東京オリンピック・パラリンピックの年であり、また、日本人最初のオリンピック選手、韋駄天こと金栗四三さんが、箱根駅伝を始めて100年目に当たるということで、これまで以上に興味をもってテレビ観戦しました。結果は、皆さん御承知の通り、青山学院大学が2年ぶり5度目の完全優勝を飾りました。

試合後、優勝チームはたくさんのテレビに出演し、様々なエピソードを語ってくれます。その中で、印象的だったのが、運営管理車に乗った監督からのアドバイスと最終10区を走った選手の言葉です。

まず、監督に対しては、それぞれの選手が「うまくのせられた」と語っています。その監督の指示は、現在の状況（タイムや他校の選手との距離など）を適切に伝えるとともに、短いスパンでの目標タイムを告げたり、個人記録や大会記録を持ち出して激励したりすることで、目の前の目標が見えて走りやすいと評判です。まさに、孫子の兵法「彼を知り己を知れば百戦殆うからず」です。うまくのせられた選手たちは、存分に実力を発揮して、見事新記録でゴールしました。さらに最終10区の選手は、「ゴールテープを切る自分の姿を想像しながら走りました」と話しています。自分の姿をイメージできるということは、目標がしっかりと定まっているということであり、それが素晴らしい走りにつながったのではないかと思います。（結果的には、声援の大きさに圧倒され、自分の思ったポーズでゴールできなかったそうですが…）目標の見える化や大きさ（程度）など、新年の目標を立てる際のよいお手本になるのではないのでしょうか。

優勝したチーム（選手）だけでなく、この大会に向けて頑張ってきたすべてのチーム（選手）に、月並みですが「感動をありがとう！！」と言いたいと思います。